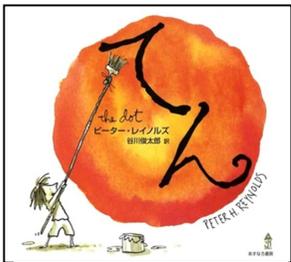


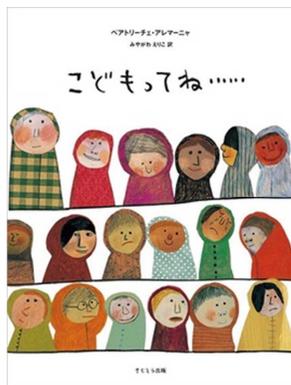


「うちってやっぱりなんかへん？」
 作 トーリル・コーヴェ
 訳 青木 順子（偕成社）
 どうしてうちはよそと違うんだろ
 う？イスも服も…。だから頭の中がぐる
 ぐるしておなかが痛くなる。ほしかった
 自転車も特注。でもそれは！！ (I.K)

〈 大人向け 〉



「てん」
 作・絵 ピーター・レイノルズ
 訳 谷川俊太郎（あすなろ書房）
 絵の授業が終わっても、何も描けず白
 紙のままの女の子。「なにかしるしをつ
 けてみて。」と先生。彼女は力いっぱい
 マーカーを紙におしつけた。彼女の“し
 るし”はその後どうなったでしょう。
 (Y.Y)



「こどもってね……」
 作 ベアトリーチェ・アレマーニャ
 訳 みやがわえりこ（きじとら出版）
 子どもは小さな人。いつか、きっと大
 人になる。子どもってわからないわ！う
 ちの子はどうしてこうなの？！と思っ
 ている大人にこそ手にとってほしい一
 冊です。(T.T)

2021. 3 作成
 紹介文後の（ ）は執筆者です。

子どもに読んであげたいこの一冊

～みんなちがってみんないい～
 秋田県子ども読書支援センター支援員お薦めの本

〈およそ0～3歳〉

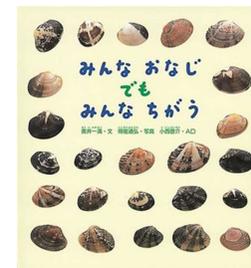


「かさ さしてあげるね」
 ぶん はせがわせつこ
 え にしまきかよこ
 （福音館書店）
 雨がふります。そうさんにピッチャン
 パッチャン、ありさんにピピ ポポ。男の
 子からびったりのかささしてもらおう動物
 たち。みんなにここに。(O.K)



「だっこだっこ」
 作 マリカ・ドレ
 訳 青山花（クレヨンハウス）
 だれにしてもらってもうれしいだっこ。
 バイバイの前、おかえりなさいのかわり
 に、ないたときにも…。シンプルな線と色
 づかいで描かれています。(O.K)

〈およそ4～5歳向け〉



「みんなおなじ でも みんなちがう」
 作 奥井一満
 写真 得能 通弘（福音館書店）
 同じなかまなのに、こんなにちがって
 たなんて。大きさや形、色、もよう、数な
 どのくらべっこができる写真集です。
 (KU.Y)

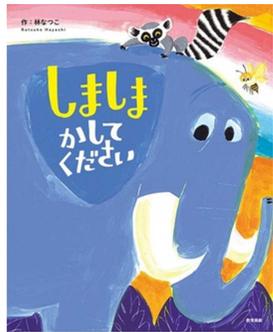


「パパとママのたからもの」

作 サム・マクブラットニィ
絵 アニタ・ジェラーム
訳 小川 仁央（評論社）

茶色のお兄ちゃん、白いぶちのある黒いお姉ちゃん、ちびっこのぼうや。ねむるときにパパとママは「せかいでいちばんかわいいこぐまたち！」といってくれるけど、いったい誰が一番好きなの？

(T.M)

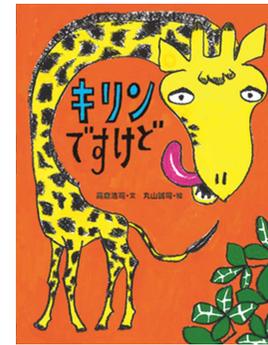


「しましまかしてください」

作・絵 林なつこ（教育画劇）

はちやさる、とらから「しましま」を借りたぞう。しまぞうになって、しまうまと大のなかよしになりました。ある日、みんなから「しましま」を返してといわれ…。しまうまとともだちでいられるでしょうか。

(W.J)

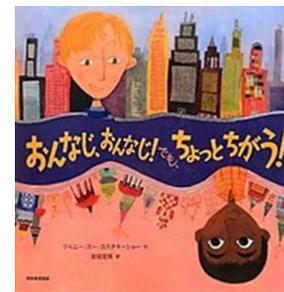


「きりんですけど」

文 高倉 浩司 絵 丸山 誠司
(絵本館)

足のはやいチーターやいつもおひるねしている牛にあこがれているキリン。夢の中で変身しますが、どれもうまくいきません。人間になるのもいいかな。

(KA.Y)



「おんなじ、おんなじ！でも、ちょっとちがう！」

作 ジェニー・スー・コステキ=ショー
訳 宮坂 宏美（光村教育図）

この絵本は、アメリカの男の子が、インドの子と絵のやりとりをするお話です。アメリカってどんなところ？インドってどんなところ？あなたのところとはおんなじ？ちがう？

(O.K)

<およそ小学校高学年向け>



「グレース・ホッパー プログラミングの女王」

文 ローリー・ウォールマーク
絵 ケイティ・ウー
訳 長友 恵子（岩崎書店）

[人間]の言葉でプログラムを書くことを考え出し、プログラミングの歴史を大きく変えたグレース・ホッパー。「イメージング（すばらしい）グレース」とも呼ばれた彼女の子どものときからのユニークなエピソードや生き方を描いてあります。

(KA.Y)

<およそ小学校低学年向け>



「さっちゃんのまほうのて」

作・絵 たばたせいいち（偕成社）

ママごとあそびのおかあさんになりたかったさっちゃん。でもようちえんのともだちが言ったのです。「さっちゃんはおかあさんになれないよ。」と。それはなぜなのでしょう。

(S.K)